

<今回>305回目 2021年11月8(月)15時~18時 第9会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p364、2つの王朝 より

<前回>304回目(21-10-29)出席者 8名

資料(21-10-29-1)前回のまとめ(清水)

一2)割られた鏡(榛葉)

一3)「とつかおむすび広場」古代史を学ぶ講座案内(榛葉)

一4)風土記(高山)

A 報告 このまま新型コロナが収束に向かうことを期待しよう。

B 資料 2)平原王墓の割られた鏡の公式資料を榛葉氏が本当に故意に割られたものか、疑問を感じて自身で確かめたもの。伊都国に象徴される銅鏡の破碎。平原古墳では破碎された銅鏡の復元結果を見ると①ほぼ完全に復元できたもの②部分的に欠損しているもの③残存率が半分に満たないもの。など一律に銅鏡を破碎した後、墓におさめられたわけではないことがわかる。北部九州の墳墓から副葬前に破碎していた事を示す例が多数見つかっている。他の地域では故意に割られたものは少ない。完形や自然破壊のものの方が多数。弥生遺跡の墳墓特有のものか、死者への敬意、感謝か。死体を怖れていたのか、穢れの信仰か。占いが当たらなかった罰か議論があった。3)12月3日の午後「とつかおむすび広場」で大越さん(そうだったのか邪馬台国)、大墨さん(聖徳太子の謎)が日本古代史講座を開きます。この読書会の聴講希望者は優先します。定員20名ですと案内がありました。4)風土記について高山氏が「なりたち」から残存風土記は播磨、常陸、出雲、豊後、肥前。逸文は平安後期から鎌倉時代にかけて始まり、摂津、山背国など。九州風土記逸文には2種類あり、井上通泰(柳田国男の兄)が甲類と乙類のあることを示した。乙は東西南北を45度傾けた乾坤巽艮(けんこんそんごん)と表している。筑紫風土記の呼び方が通例。筑紫風土記の筑紫は九州全体または九州倭国を表しているのかもしれない。「県」の所在地一覧表など有用な資料が示された。地方制度として縣(あがた)があり、650年以降700年までその上に「評」が置かれた。大宝律令(701年)から評が郡になった。

C 読書 359頁 次に古老伝えて云う

1)「多有篤疾」の読み方。①過去形で読むべきである。現在の事なら古老の言は必要ない。②多くの住民が篤疾を持っていた。(まともな人は少ない)③大戦争で負け戦の状況を表している。磐井軍や住民の惨状を言い伝えたのだろう。古老伝えて云う、上妻県多く篤疾有きと。蓋し茲に由るかは何を指すか。古田先生は原爆投下直後の広島惨状をご自分の目の当たりにした体験談を挟む。

2)百済本記は日本天皇、太子、皇子はともに死すと、支配階級の壊滅を記した。同時に筑後風土記は民衆の惨状と窮迫を伝承していた。

次回日程 2021-11-26(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第9会議室

一12-10(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

一12-24(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

2022-1-10((月・祭日) 16時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室